

2020年2月18日 正伯塾「ふなばし学講座」: 於・薬円台自治会館 蔵由美

## 石仏にみる船橋と北総の月待信仰



八千代市吉橋 尾崎大師堂  
二十三夜塔 寛文8(1668)

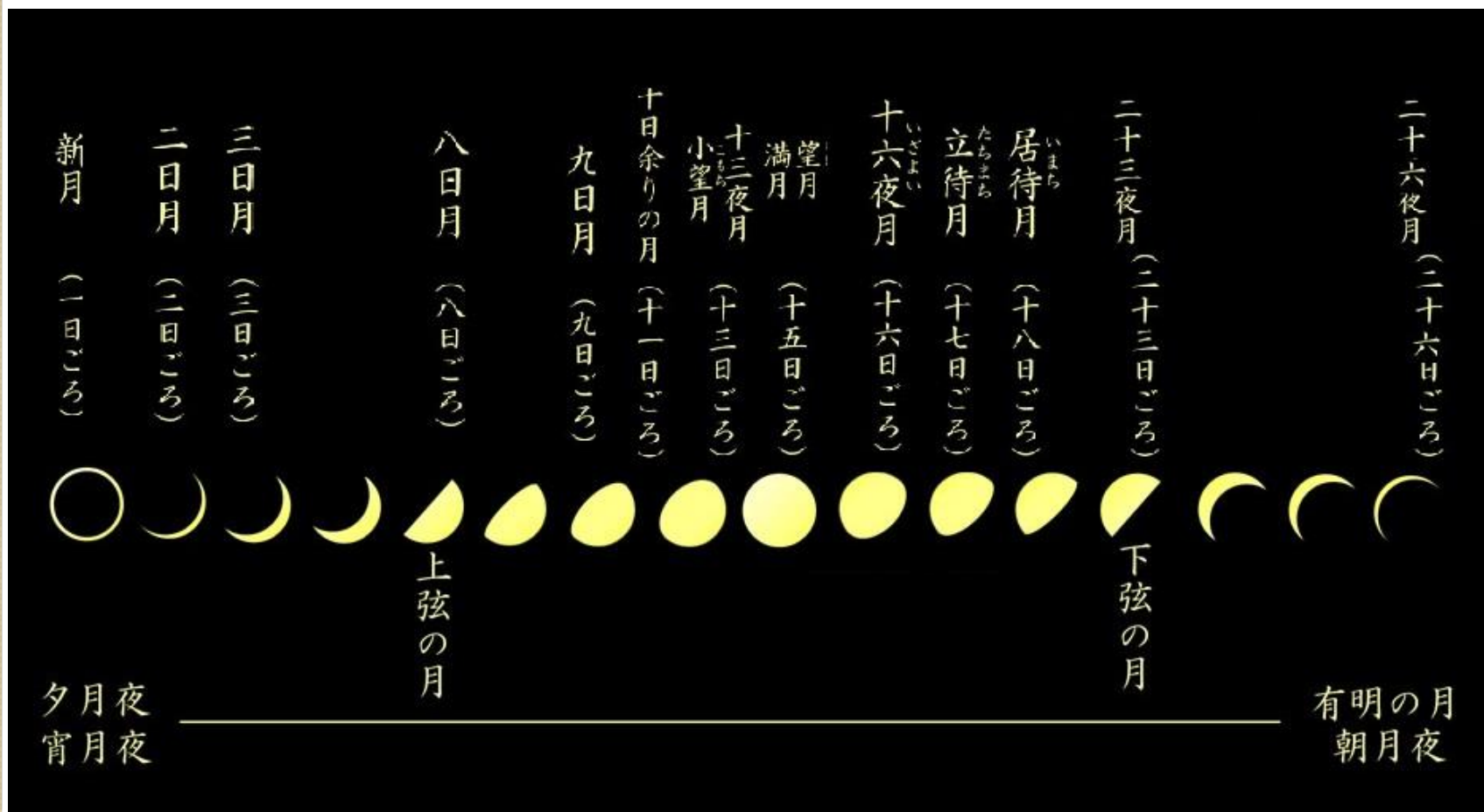


大神保町十字路  
二十三夜塔 文政2年(1819)



田喜野井正法寺  
十九夜塔 延宝5年(1677)

- 月待（つきまち）とは、月の満ち欠けによる月齢の十五夜・十六夜・十七夜・十九夜・二十三夜・二十六夜など、毎月または特定月の特定日（アタリ日）に講中が集り、本尊を祀り飲食しながらの月の出を待ち、礼拝する行事です。
- 月待は、日が暮れてから月の出る十五夜を過ぎた夜に集中します。満月（十五夜）は18時頃、下弦の月の二十三夜は真夜中の24時頃、二十六夜は明け方の陽が昇る前に出てきます。
- 二十三夜待は16世紀ごろから公家社会で行われ、庶民層にも普及して、特に正・五・九の二十三夜、全国的に広まり、月待というと「二十三夜待」を指していました。
- 十九夜講中によって造立されたのが、十九夜塔です。十九夜講のほとんどは女人講で、十九夜塔は山形・福島と関東一円、長野、関西では京都・奈良など各地に分布しています。中でも千葉県では北総一帯に特徴的に分布し、如意輪観音または子安観音の刻像が多くみられます。

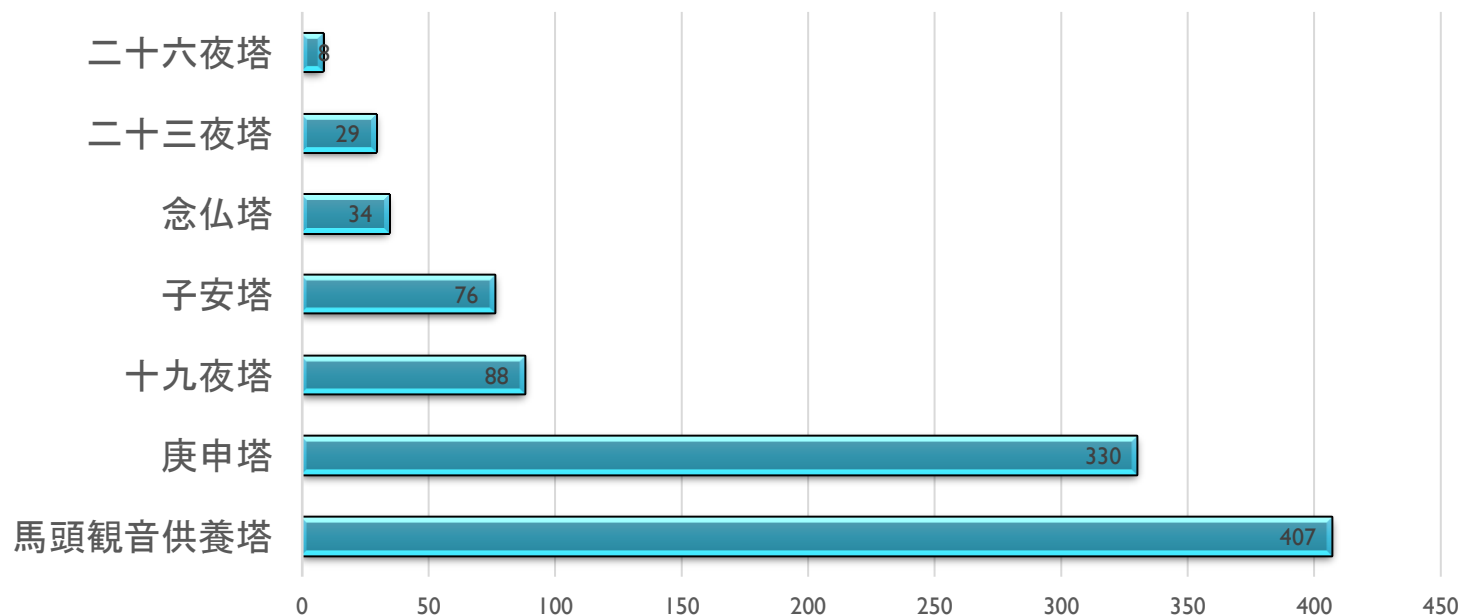


# 船橋市内の月待塔と他の石塔の基数

| 月待塔   | 基数  | 最古の年銘 |      | 他の主な石塔  | 基数  | 最古の年銘 |      |
|-------|-----|-------|------|---------|-----|-------|------|
| 十九夜塔  | 88  | 延宝5   | 1677 | 念仏塔     | 34  | 万治元   | 1658 |
| 二十三夜塔 | 29  | 元文4   | 1739 | 庚申塔     | 330 | 寛文4   | 1664 |
| 二十六夜塔 | 8   | 貞享5   | 1688 | 子安塔     | 76  | 安永7   | 1778 |
| 月待塔総数 | 125 |       |      | 馬頭観音供養塔 | 407 | 延宝3   | 1675 |

出典:『船橋市の石造文化財』(昭和59年刊行)から集計

基数





2 薬円台近辺の女性たちの信仰を伝える十九夜塔や石祠



道入庵（前原東五丁目）  
宝永4年（1707）十九夜塔



道入庵  
女人講が奉納した六地藏



薬円台一丁目 神明社  
寛政3年(1791)「子安大明神」石祠



前原東五丁目 御嶽神社  
文化2(1805)「小安大明神」石祠



3 前原五丁目百庚申の中の二十三夜塔



文政10・4・21(1827)  
「(サ)二十三夜塔 / 村中」





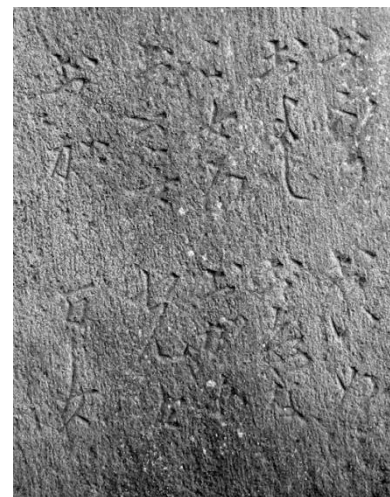
4 船橋市内の念仏塔 ①



本町2丁目路傍  
「西向き地藏」(延命地藏像)  
万治元年(1658)  
「さんや村」の「念仏講中間拾貳  
人同女人十六人」が造立



印内町 木戸内地蔵堂 伝・成瀬地藏像  
貞享4年(1684)  
「念仏講連衆」女性19名  
左前:寛延2年(1749)「奉造立如意輪観世  
音 十九夜 講中為二世安楽」



本町3丁目不動院 六面石幢  
元禄十四巳年(1701)  
「女念仏講為二世安楽」 女性名39名



4 船橋市内の念仏塔 ②



寛文9・10・吉(1669) 如意輪観音像  
「善女人念仏講之衆等現当成就 敬白」

寛文2・10・24(1661) 延命地蔵像  
「念仏講男女成就所」

享保13・11・19(1728) 如意輪観音像  
「奉造立如意輪像念仏講成就所」



5 船橋市内の十九夜塔 ①



延宝5年8月19日(1677)  
田喜野井正法寺  
「十九夜講  
如意輪觀世音菩薩  
現未來願成就為菩提也」



元禄3年10月吉日(1690)  
鈴身町 蓮蔵院  
「口造立十九夜念仏」



元禄11年2月19日(1698)  
高根町観行院墓地  
「十九夜念仏祈」



元禄17年吉日(1704)  
高根町観行院墓地  
「奉納十九夜成就所」



享保8年(1723)  
海神6大覚院  
「十九夜念仏講為二世安楽也」



5 船橋市内の十九夜塔 ②



宝永8年(1711)  
西船7路傍  
「講中六十八人」



延享元年(1744)  
印内光明寺  
「為二世安樂也」



宝暦4年(1754)  
田喜野井正法寺  
「十九夜講成就祈所」



享保16年10月(1731)  
田喜野井正法寺  
「十九夜講成就之攸  
善女同行三十六人」



寛延元年(1748)  
西船三丁目正延寺  
「造立十九夜念仏」



5 船橋市内の十九夜塔 ③

安永8年(1779) 子安像の十九夜塔  
米ヶ崎 無量寺 「十九夜講中 二世安楽」



文化6年(1809)  
西船三丁目正延寺  
「十九夜講中」



文化9年(1812)  
印内光明寺  
「十九夜講中」



寛政6年(1794)  
田喜野井正法寺  
「十九夜講中 二十五人」



6 船橋市内の二十三夜塔 ①



金杉三丁目の旧金蔵寺 元文4年(1739)  
「甚兵衛」 他12人の名



八木ヶ谷の長福寺 寛延3年(1750)



6 船橋市内の二十三夜塔 ②



鈴身町蓮蔵院 明和元年(1765)  
「奉待廿三夜供養塔」  
願主長兵衛 / 男女講中」



大神保町十字路 文政2年(1819)  
「廿三夜供養塔／普門品一万巻成就  
東舟尾むら道／北きをろしみみち／西大志んぼう村」





山手三丁目 諏訪神社  
天保3年(1832)



八木ヶ谷五丁目 王子神社





貞享5・2・26(1748) 二十六夜塔  
「帰命月廿六夜／願主藤次郎（他人名10名）」

## 高根町観行院の二十六夜塔と 先行する念仏塔



元禄2・10・吉 念仏塔  
「念仏供養成就衆生所  
／同行十四人」



元禄6・10・20 念仏塔  
「日記念仏供養／南無阿弥陀仏  
／善男子」





## 二十六夜講によって建てられた珍しい馬頭観音塔

### 馬頭塚

夏見町六丁目 寛政十年(1798)

銘文:(前)「西夏見六夜講中」

この馬頭観音の石塔は、二十六夜講の人びとの手により寛政十年七月に造立されました。

塔の中央には頭上に馬頭の冠を乗せた馬頭観音の姿が描かれています。馬頭観音は観世音菩薩の化身の一つです。馬の保護神として信仰されてきました。船橋市内には馬頭観音の石塔が数多く残されています。地域の人びとが昔から馬を大切にし、馬とともに生活してきたことを裏づける石塔と言えます。

船橋市郷土資料館で展示中



## 二十六夜講は女人講か？

### 坪井町太山堂前の二十六夜供養塔

天保3(1832)年造立

銘は「廿六夜愛深明王／女人講中」

(By 『船橋市の石造文化財』正誤表)





7 船橋市内の二十六夜塔 ④



天保9年(1838)  
夏見二丁目 日枝神社  
愛染明王像塔  
「当村二十六夜講中」



文化8年(1811)  
本町四丁目 道祖神社  
愛染明王像塔  
「女人講中」

## 二十六夜講は女人講か？



大正12年(1923)  
東船橋七丁目  
茂呂神社  
二十六夜塔



文政7年(1824)  
茂呂神社  
子安塔(石祠)  
「子安大明神」



船橋市内の子安塔 ①



天明5年(1785)  
金堀町 竜蔵院  
「子安講中 三十七人」



文政7年(1824)  
高根町神明社  
「女人講中」石祠



文政7年(1824)  
東町 不動院  
「当村講中」



# 8 船橋市の子安塔 ②



文久2年(1862)  
前貝塚町 行伝寺  
「鬼子母神」



明治3年 (1870)  
飯山満町三丁目  
王子神社  
「子安大明神」



明治19年(1886)  
八木が谷長福寺  
「子安観世音 女人講中」



明治20年(1887)  
古作町 熊野神社



- ・ 女人講である十九夜講の前身が念仏講であったことを石仏の銘文からたどることが可能。
- ・ 船橋市域では、馬とともに生活し発展してきた地域からか、馬頭観音塔が多く、寛政10年の馬頭観音像は二十六夜講により建立されている。
- ・ 江戸後期の二十六夜塔は、女人講の建立であった可能性が否定できない。
- ・ 江戸中期に子安神の石祠が祀られ、江戸後期から十九夜塔の刻像が如意輪観音像から子安像になっていくと、女人講は子安講に代わっていく。



享保16年10月(1731)  
田喜野井正法寺  
「十九夜講成就之攸  
善女同行三十六人」



寛政10年(1798)  
馬頭観音像二十六夜塔



天保3(1832)年  
坪井町 二十六夜塔  
「廿六夜愛染明王／女人講中」



天保12年(1841)  
東船橋日枝神社  
「女人講中」



# 第二部

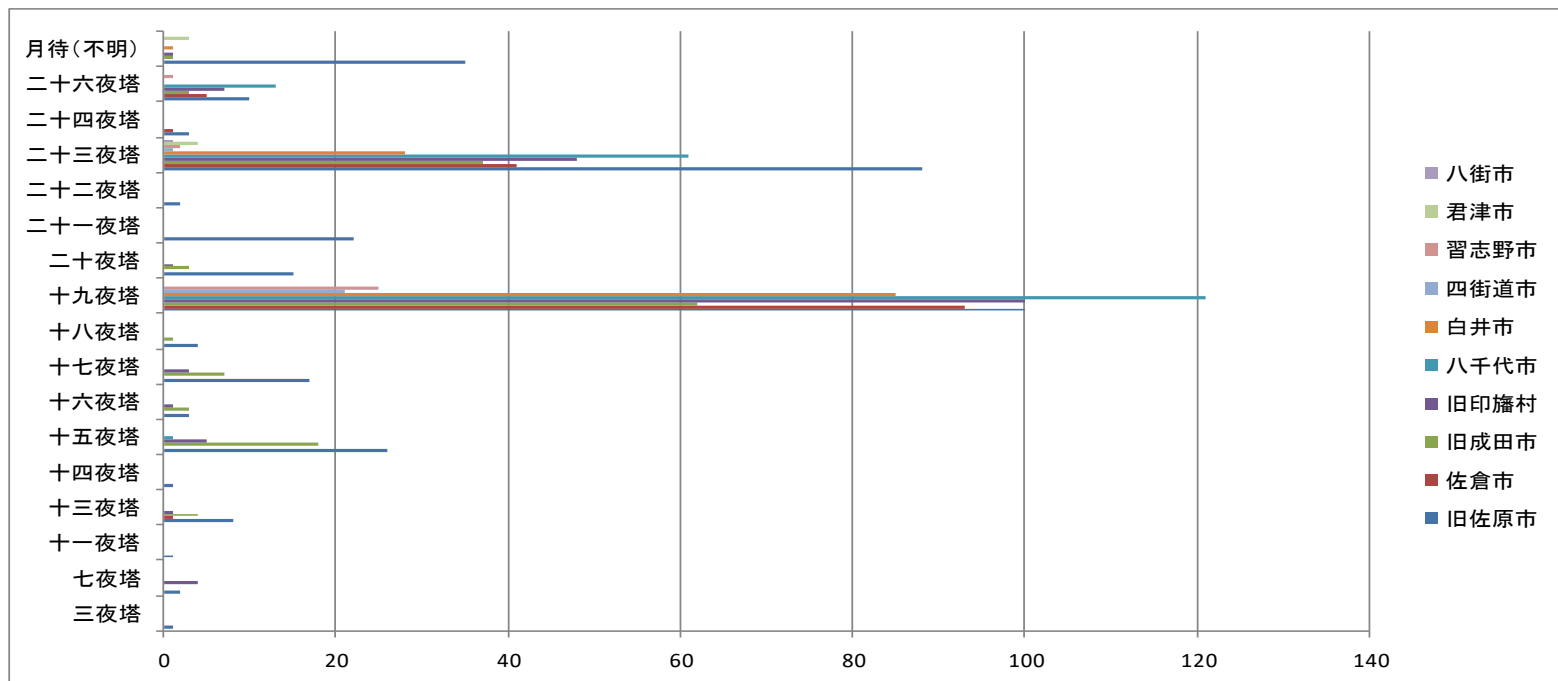
## 北総の月待塔

### 1

## 地域的な様相

### 北総10市町村の月待塔の種類別基数

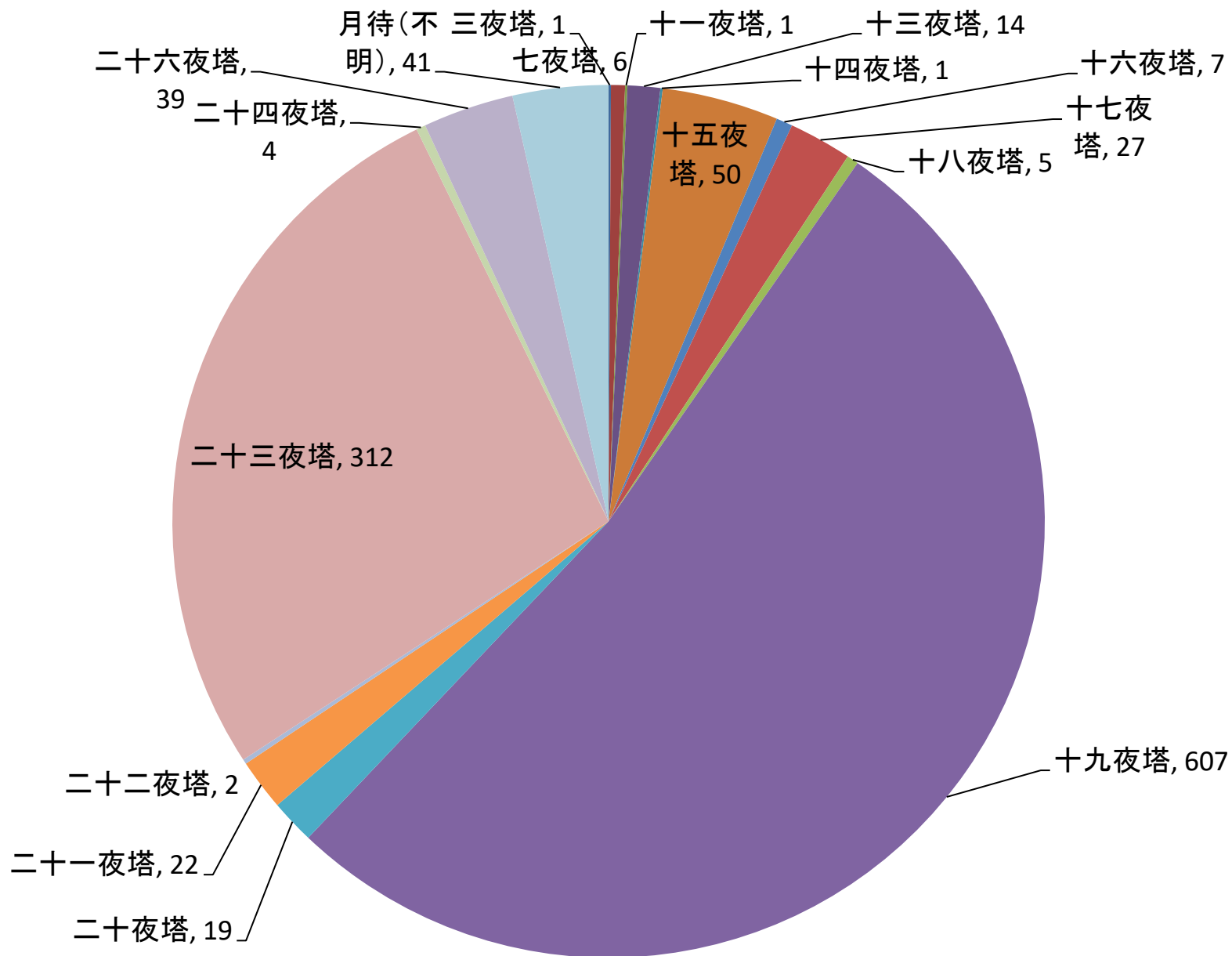
| 月待塔種類  | 旧佐原市 | 旧成田市 | 佐倉市 | 旧印旛村 | 八千代市 | 白井市 | 四街道市 | 八街市 | 習志野市 | 君津市 | 計    |
|--------|------|------|-----|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|
| 三夜塔    | 1    | 0    | 0   | 0    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 1    |
| 七夜塔    | 2    | 0    | 0   | 4    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 6    |
| 十一夜塔   | 1    | 0    | 0   | 0    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 1    |
| 十三夜塔   | 8    | 4    | 1   | 1    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 14   |
| 十四夜塔   | 1    | 0    | 0   | 0    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 1    |
| 十五夜塔   | 26   | 18   | 0   | 5    | 1    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 50   |
| 十六夜塔   | 3    | 3    | 0   | 1    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 7    |
| 十七夜塔   | 17   | 7    | 0   | 3    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 27   |
| 十八夜塔   | 4    | 1    | 0   | 0    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 5    |
| 十九夜塔   | 100  | 62   | 93  | 100  | 121  | 85  | 21   | 0   | 25   | 0   | 607  |
| 二十夜塔   | 15   | 3    | 0   | 1    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 19   |
| 二十一夜塔  | 22   | 0    | 0   | 0    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 22   |
| 二十二夜塔  | 2    | 0    | 0   | 0    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 2    |
| 二十三夜塔  | 88   | 37   | 41  | 48   | 61   | 28  | 1    | 1   | 2    | 4   | 311  |
| 二十四夜塔  | 3    | 0    | 1   | 0    | 0    | 0   | 0    | 0   | 0    | 0   | 4    |
| 二十六夜塔  | 10   | 3    | 5   | 7    | 13   | 0   | 0    | 0   | 1    | 0   | 39   |
| 月待(不明) | 35   | 1    | 0   | 1    | 0    | 1   | 0    | 0   | 0    | 3   | 41   |
| 計      | 338  | 139  | 141 | 171  | 196  | 114 | 22   | 1   | 28   | 7   | 1157 |



完全なデータを分析したものではありませんが、地域的な様相の違いや傾向の把握のために、集計してみました。

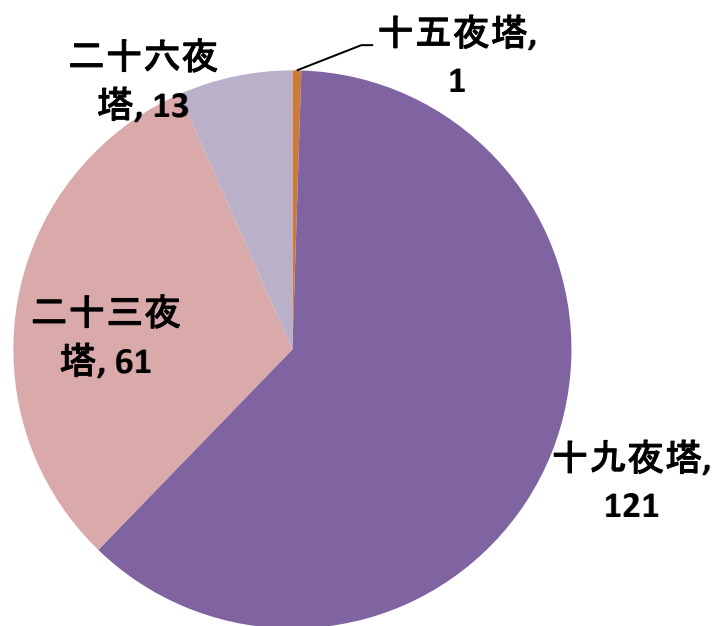
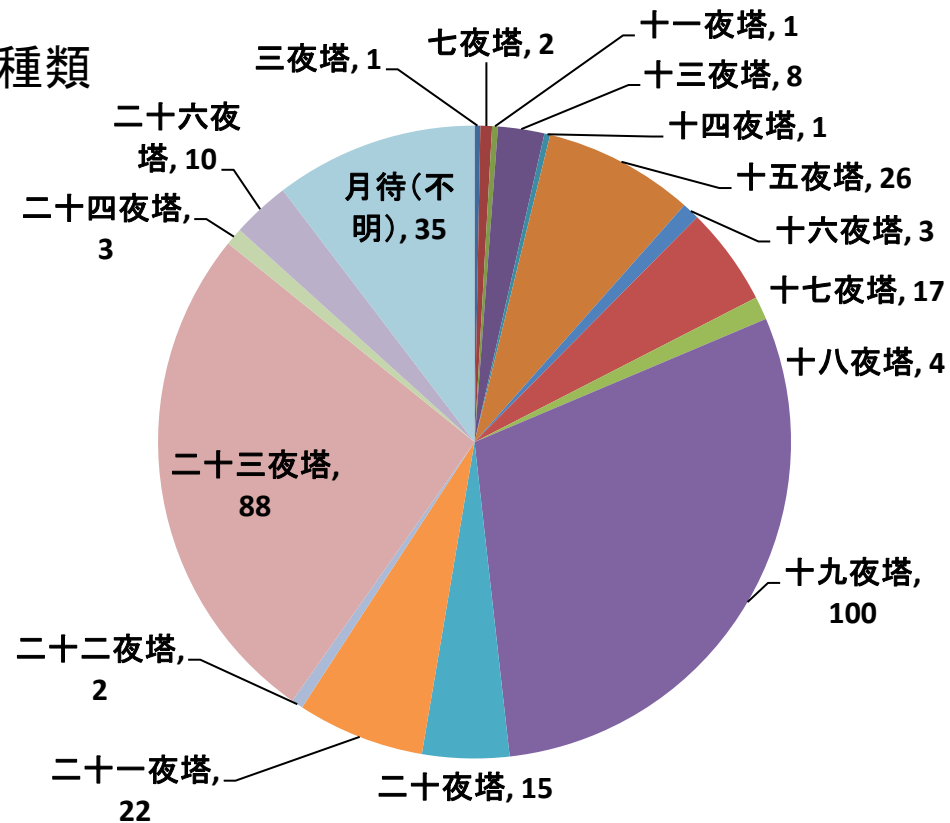


# 北総10市町村の月待塔の種類別基数グラフ

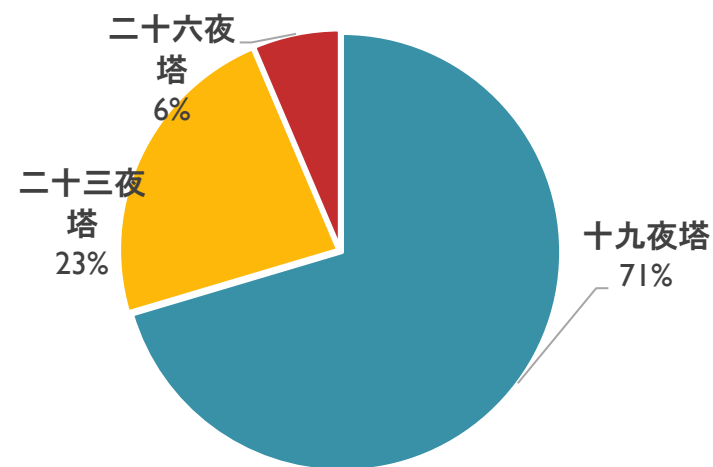




# 旧佐原市域の月待塔の種類



八千代市域の月待塔196基



船橋市域の月待塔125基

「十四月待」「十五日念仏」「十六夜」塔

2 北総の十四、十七夜塔の事例



元禄11(1698)  
香取市山川墓地  
阿弥陀像「拾四月待」



元禄9(1696)  
佐倉市飯野観音 阿弥陀像  
「十五日念仏」塔



寛政7(1792)土浦市小岩田東福  
聖院廃寺跡 子安像  
「十六夜」「女人講」



## いろいろな像容の「十五夜」塔



享保1(1716)  
八千代市村上 正覚院  
地蔵像「十五夜念仏」塔  
(おいわ おい口等女性名)



明和元(1756)  
香取市龍谷 円珠院跡  
聖観音像「十五夜」塔



文化7(1810)  
香取市石納(こくのう) 観照院  
子安像「十五夜」塔



## 十七夜塔



元禄11(1698)香取市  
龍谷円珠院跡 聖観音像 十七夜塔



延享3(1746)香取市石納・結佐大明神  
如意輪観音像 十七夜塔



## 十九夜塔とは

旧暦19日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「**十九夜講**」と呼び、関東北東部で盛んに行われていました。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「**十九夜塔**」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の**如意輪観音像が主尊**として彫刻されています。



## 千葉県での十九夜塔の始まり

千葉県で一番古い十九夜塔は、香取市石納の結佐大明神境内の石塔で中段に「キリーク」の梵字と台石に「承応元年(1652)壬辰年／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘があります。

「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では万治3年(1660)山武市戸田の金剛勝寺の十九夜塔からです。

なお、千葉県内のその頃の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、またまれに聖観音像や地藏像の十九夜塔も見られます。

## 千葉県内の十九夜塔の初出



千葉県で一番古い十九夜塔は、香取市石納の結佐大明神境内の石塔  
中段に「キリク」の梵字  
基礎に「承応元(1652)壬辰年／十九夜侍之供養／十二月十九日」の銘



山武郡芝山町加茂普賢院  
明暦元年(1655)造立の六地藏立  
像の石幢  
「奉新造立石六地藏十九夜待」の銘



山武市本須賀の大正寺  
万治2年(1659)宝篋印塔  
「上総国山辺庄武射郡南郷本須賀村  
奉唱満十九夜念佛二世安隠之所  
萬治二年己亥三月十九日  
結衆七十五人敬白」の銘



## 如意輪観音を主尊とした十九夜塔の初出



木像地藏菩薩立像（子育て地藏）



江戸時代地藏市の様子（利根川図志：赤松宗旦著）



茨城県利根町布川の徳満寺  
万治元年(1658)の  
最古の如意輪観音像の十九夜塔  
左は時(斎)念仏塔 元禄14年(1701)





## 最古の如意輪観音像の十九夜塔



万治元年(1658)茨城県利根町布川の徳満寺  
四臂？如意輪観音を線彫りした板碑型の塔



万治2(1659)利根町布川神社「十九夜」塔  
六臂如意輪観音を線彫りした板碑型の塔



## 最古の如意輪観音像の十九夜塔-2



万治元年(1658)茨城県利根町布川の徳満寺  
四臂?如意輪観音を線彫りした板碑型の塔



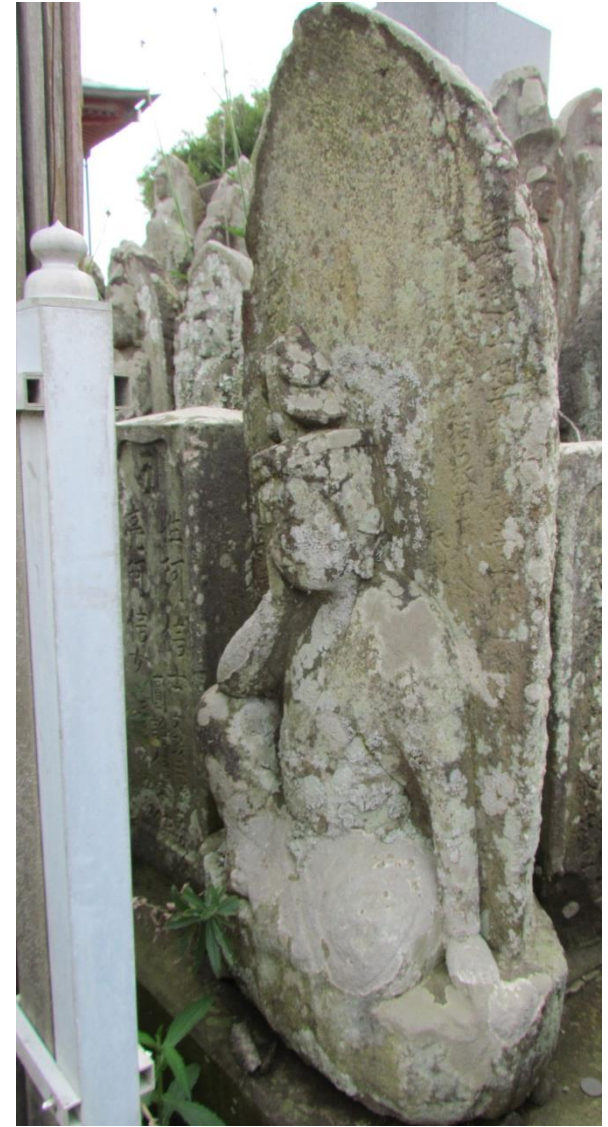
万治2(1659)利根町布川神社「十九夜」塔  
六臂如意輪観音を線彫りした板碑型の塔



## 千葉県で最古の如意輪観音像の十九夜塔



万治3年(1660)山武市  
戸田の金剛勝寺の十九夜塔  
上部に弥陀三尊の種字



寛文3年(1663)山武市  
松ヶ谷の勝覚寺の十九夜塔



## 印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -1 初期



寛文5年(1665)  
小倉青年館



寛文6年(1666)  
山田円蔵寺



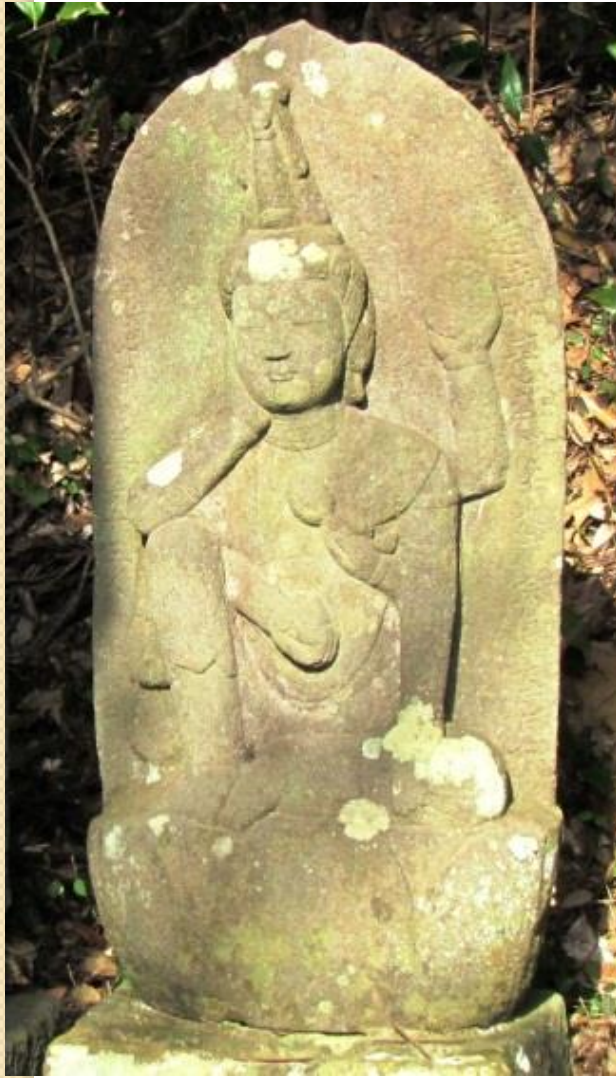
寛文8年(1668)  
大森古新田青年館



寛文8年(1668)  
和泉青年館



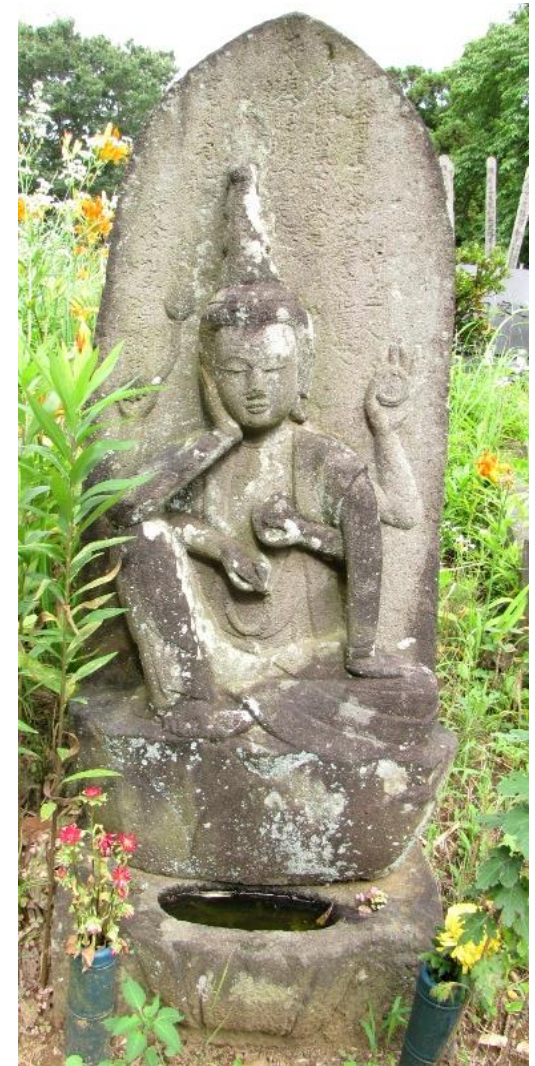
印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -2 初期



寛文8年(1668)  
松虫寺



寛文9年(1669)  
中根福聚院



寛文9年(1669)  
小林 光明寺



## 印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -3 初期



寛文11年(1671)  
戸神青年館



寛文12年(1672)  
印旛村平賀観音堂



寛文13年(1673)  
竹袋観音堂



印西市の十九夜塔の如意輪観音の姿 -4 江戸中期



天明2年(1782) 小林 光明寺



寛政元年(1789) 中央公民館前  
「江戸道」道標



文政10年(1827) 鎌苅 東祥寺



## 北総の十九夜塔の如意輪観音の姿 -1



寛文10年(1670)  
白井市延命寺



延宝2年(1674)  
八千代市高津観音寺



貞享2年(1685)  
松戸市徳蔵院



延享4年(1747)  
千葉市花島観音



## 北総の十九夜塔の如意輪観音の姿 -2



宝暦3年(1753)  
佐倉市青菅正福寺



明和4年(1767)  
八千代市麦丸 東福院



文化7年(1810)  
白井市下長殿青年館



## 如意輪觀音像以外の像の十九夜塔-1



寛文13(1673)香取市  
西音寺 聖觀音像 十九夜塔



延宝2(1674)香取市  
田部西雲寺  
聖觀音像 十九夜塔



元禄8(1695)香取市  
西音寺 地蔵像 十九夜塔



## 如意輪觀音像以外の像の十九夜塔-2



享保13(1728)習志野市  
津田沼東福寺  
大日如来像 十九夜塔



寛政2(1790)千葉市  
横戸町明星寺  
地藏像 十九夜塔



寛政11(1799)香取市  
石納結佐大明神  
虚空蔵像 淡嶋・十九夜塔



## 如意輪観音像以外の像の十九夜塔-5



享保5(1720) 佐倉市  
先崎みどり台墓地 六地蔵 「十九夜講」銘



宝暦13(1763)八千代市萱田長福寺 宝篋印塔  
「奉造立六地蔵講中 奉供養十九夜講中 當村善  
女人」銘



## 子安像の十九夜塔 -1



寛延4(1751)旧大栄町  
馬乗里お堂付近



宝暦2(1752)成田市  
水掛48墓地



宝暦5(1755)旧本埜村  
行徳稻荷神社



## 子安像の十九夜塔 -2



天明7年(1787)山田町  
大角稻荷神社



寛政8(1796)香取市  
与倉・西方院跡(公会堂)



平成26(2014)八千代市  
下高野福蔵院



# 十九夜塔の分布

## 十九夜塔の分布

千葉県北部、茨城、栃木、埼玉、福島県の一部に多い  
特に利根川流域を中心に、「古鬼怒湾」あるいは「香取の海」といわれる霞ヶ浦から印旛沼・手賀沼を含む湖沼から遡上する河川沿岸の村々ひろがる

## 初期の十九夜塔造立数

利根川とその支流の小貝川・手賀川・長門川・利根常陸川の流入地点が  
早い段階から十九夜塔普及の地域となっている

## 十九夜塔の関東各県別の数

|     |         |
|-----|---------|
| 栃木県 | 2702基   |
| 茨城県 | 1672基   |
| 福島県 | 1449基   |
| 千葉県 | 1175基 * |
| 群馬県 | 142基    |
| 埼玉県 | 108基    |

中上敬一氏の2005年報告

\* 石田年子氏の2011年の集計で  
千葉県 1997基

## 初期の十九夜塔造立数 寛文10年(1670)まで

### 茨城県側

|     |     |
|-----|-----|
| 利根町 | 10基 |
| 伊奈町 | 7基  |
| 取手市 | 6基  |
| 藤代町 | 3基  |
| 鹿嶋市 | 3基  |

### 千葉県側

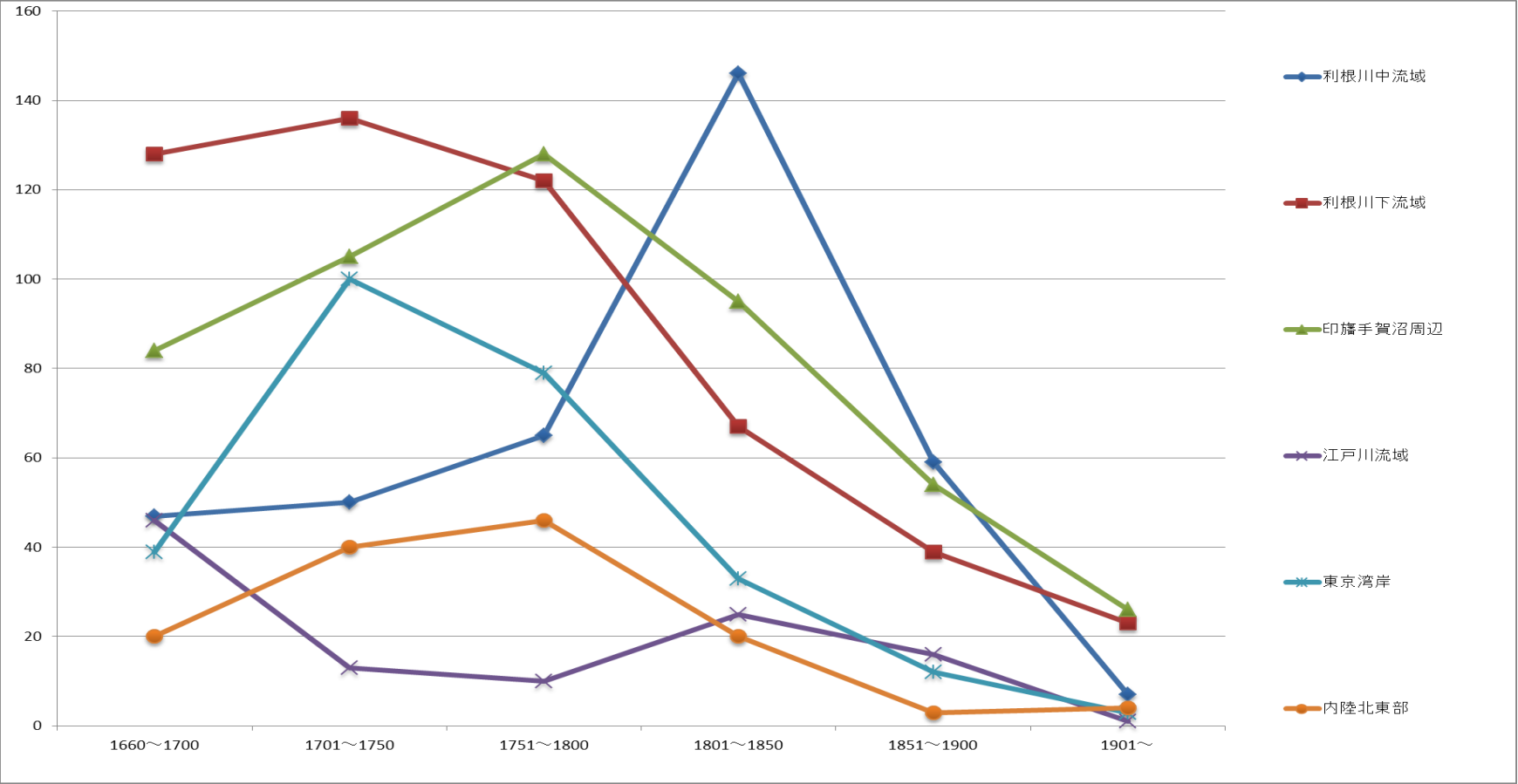
|     |     |
|-----|-----|
| 印西市 | 12基 |
| 佐原市 | 6基  |
| 印旛村 | 6基  |
| 我孫子 | 5基  |





| 西暦        | 利根川中流域 | 利根川下流域 | 印旛手賀沼周辺 | 江戸川流域 | 東京湾岸 | 内陸北東部 | 計    |
|-----------|--------|--------|---------|-------|------|-------|------|
| 1660～1700 | 47     | 128    | 84      | 46    | 39   | 20    | 364  |
| 1701～1750 | 50     | 136    | 105     | 13    | 100  | 40    | 444  |
| 1751～1800 | 65     | 122    | 128     | 10    | 79   | 46    | 450  |
| 1801～1850 | 146    | 67     | 95      | 25    | 33   | 20    | 386  |
| 1851～1900 | 59     | 39     | 54      | 16    | 12   | 3     | 183  |
| 1901～     | 7      | 23     | 26      | 1     | 3    | 4     | 64   |
| 不明        | 9      | 41     | 24      | 5     | 18   | 9     | 106  |
| 合計        | 383    | 556    | 516     | 116   | 284  | 142   | 1997 |

| エリア     | 市町村名 |     |     |     |      |     |    |    |
|---------|------|-----|-----|-----|------|-----|----|----|
| 利根川中流域  | 野田   | 柏   | 我孫子 |     |      |     |    |    |
| 利根川下流域  | 印西   | 栄町  | 成田  | 佐原  | 東庄   | 小見川 |    |    |
| 印旛手賀沼周辺 | 沼南   | 鎌ヶ谷 | 白井  | 八千代 | 佐倉   | 酒々井 | 印旛 | 本埜 |
| 江戸川流域   | 市川   | 松戸  | 流山  |     |      |     |    |    |
| 東京湾岸    | 船橋   | 習志野 | 千葉  |     |      |     |    |    |
| 内陸北東部   | 四街道  | 富里  | 大栄  | 山田  | 八日市場 |     |    |    |





## なぜ十九夜なのか？ 利根川べりに十九夜塔が多いのはなぜか

五来重の『石の宗教』＝「観音の縁日の18日に遠慮」「十九は馬鹿とか安物、つまらぬもの」「女人自ら罪業深きつまらぬものと自覚」「間引きの罪悪感→死児の供養」

⇒遠藤和男「女人講は十九夜ばかりではない。江戸時代の女性は低い地位に甘んじていたかどうか検討の余地がある」

⇒中上敬一（⇒五来氏の説に反論）

「十九夜塔が関東で3000基以上も堂々と建立されている。」

「十九夜の由来は、女の厄払いと安産（難産除け）祈願であった、若き女の厄年は十九歳であるからこれを日厄にして十九夜ができた」（結果論か？）

茨城県新治郡出島村に残された明治十年の和讃

「帰命頂礼 十九夜の由来を詳しく尋ねるに数多の諸仏集まりて、若き女の大厄は、難産除けの祈祷にて、火水を改め身を清め十九夜待をするならば、慶長元年酉の三月十九日 十九夜念仏始まりで、雨の降る夜も降らぬ夜も・・・」

- ・利根川べりの女人講が十九夜と如意輪観音に定着するのは、十九夜塔で見ると寛文10年（1670）以降。
- ・元和7年（1621）から本格化した利根川東遷の治水大事業が一段落し、銚子から関宿を經由、江戸に至る水運のほか、新田開発が大規模に進んでいく頃である。
- ・費用のかかる石造物建立は、女性の地位が高く、財力もあった証である。
- ・二世安樂を祈願する中世末期の念仏講から、女人講が江戸初期の早くから成立した。
- ・女人往生と安産祈願は、不可分である。
- ・江戸中期には、子安信仰と習合⇒現世利益・親睦・相互扶助が中心、如意輪観音像から子安像塔へ

- ・十九夜の日がちが講の日選ばれたのは、謎（この日が単に集まりやすかったから？）
- ・平岩毅氏は「十九夜は月待ではない。観音崇拝の念仏信仰、19日は如意輪の縁日」（19日は、日光菩薩？）



## 二十一夜塔



宝永4(1707)香取市  
石納結佐大明神  
聖観音像「廿一夜」塔



正徳3(1713)香取市  
田部西雲寺  
聖観音像「廿一夜」塔



享保6(1721)香取市  
田部西雲寺  
地蔵像「廿一夜」塔



二十三夜塔 -1



寛文8(1668)八千代市吉橋  
尾崎大師堂の二十三夜塔



寛文9年(1669)八千代市萱田  
長福寺の日記念仏 & 二十三夜塔



## 二十三夜塔 -2



八千代市吉橋尾崎大師堂境内の二十三夜塔  
寛文8年(1668)10月10日  
「右勢至菩薩者廿三夜待開  
眼成就所 吉橋村施主敬白」  
銘



尾崎大師堂境内の日記念  
仏塔  
寛文8年10月10日  
「右地藏菩薩者日記念仏供  
養成就処 吉橋村施主敬白」  
銘 女性名連記



吉橋寺台公民館(勢至堂跡)の  
二十三夜塔(勢至菩薩像)  
元禄5年(1692)2月23日  
「二十三夜開眼供養」男性名22  
人銘



寺台公民館の日記念仏塔(聖  
観音像)  
元禄5年(1692)2月23日「日  
記念仏開眼供養」  
女性名30人銘。両者の願文  
と経文の形式はほぼ同じ。



## 二十三夜塔 -3



明暦3(1657)利根町徳満寺  
板碑型二十三夜塔  
関東では最古の二十三夜塔と言われてきたが、  
水海道市で寛永19年の塔が見つかったとのこと



貞享3(1686)香取市石納(こくのう)  
結佐(けっさ)大明神 板碑型二十三夜塔



元禄16(1703)香取市  
野間谷原(のまやわら)水神社  
光明真言 十九夜・二十三夜塔



二十三夜塔 -4



寛文10(1670) 印西市大森古新田  
青年館 勢至菩薩・地蔵像 二十三夜塔



延宝2(1674) 印西市平賀  
不動堂 勢至菩薩 像 二十三夜塔



## 二十三夜塔 -5

二十三夜の月待信仰は、「月神の月天子は勢至菩薩の化身」と説く隋代の『法華文句』に由来。

⇒天台宗「三十日佛」説の「二十三日＝勢至」

⇒月神の本地仏・勢至菩薩と二十三日が結びつき、月を拝み念仏する風習が成立

(「千葉市の十九夜念仏塔」平岩毅『房総の石仏』6号)

さいたま市三室の最古の中世板碑に、「帰命月天子 本地大勢至 …月待供養 文明十七年(1485) 己巳十一月二十三日」の銘 (三輪善之助『月神信仰の研究』)



享和4(1804)八千代市高津  
字宮ノ前庚申塚 二十三夜塔  
「廿三夜待大勢至菩薩」銘



印西市(旧本埜村)荒野南の内の二十三夜塔群  
文化年間～昭和13年 江戸期の二十三夜塔は道標付が多い。  
明治8年からは「女人講中」銘





寛政6(1794)八千代市高本  
国蔵院 題目二十三夜塔  
「南無妙法蓮華經  
奉勸請二十三夜大月天子擁護」銘



明治6(1873)八千代市米本  
字下宿東 道標付二十三夜塔  
「廿三夜大神」銘



## 二十六夜塔 -1



元禄5(1692)香取市石納  
結佐大明神  
勢至菩薩像 二十六夜塔



文化8(1811)佐倉市  
弥勒町松林寺  
愛染明王像 二十六夜塔



文化12(1815)八千代市下高野  
道祖神社奥 二十六夜塔  
「若者中」銘



## 二十六夜塔 -2



安永8(1779) 旧本埜村荒野  
南の内 道標付二十六夜塔  
台石に「女人講中」銘



明治28(1895)八千代市高本  
国蔵院 二十六夜塔



明治14～昭和43(1881～)  
八千代市大和田新田上神明社  
「女人講中」銘



## 愛染明王像塔



文化15(1818)佐倉市井野  
千手院 愛染明王像 二十六夜塔



嘉永1(1848)印西市  
松虫寺 愛染明王像塔「女人講中」銘



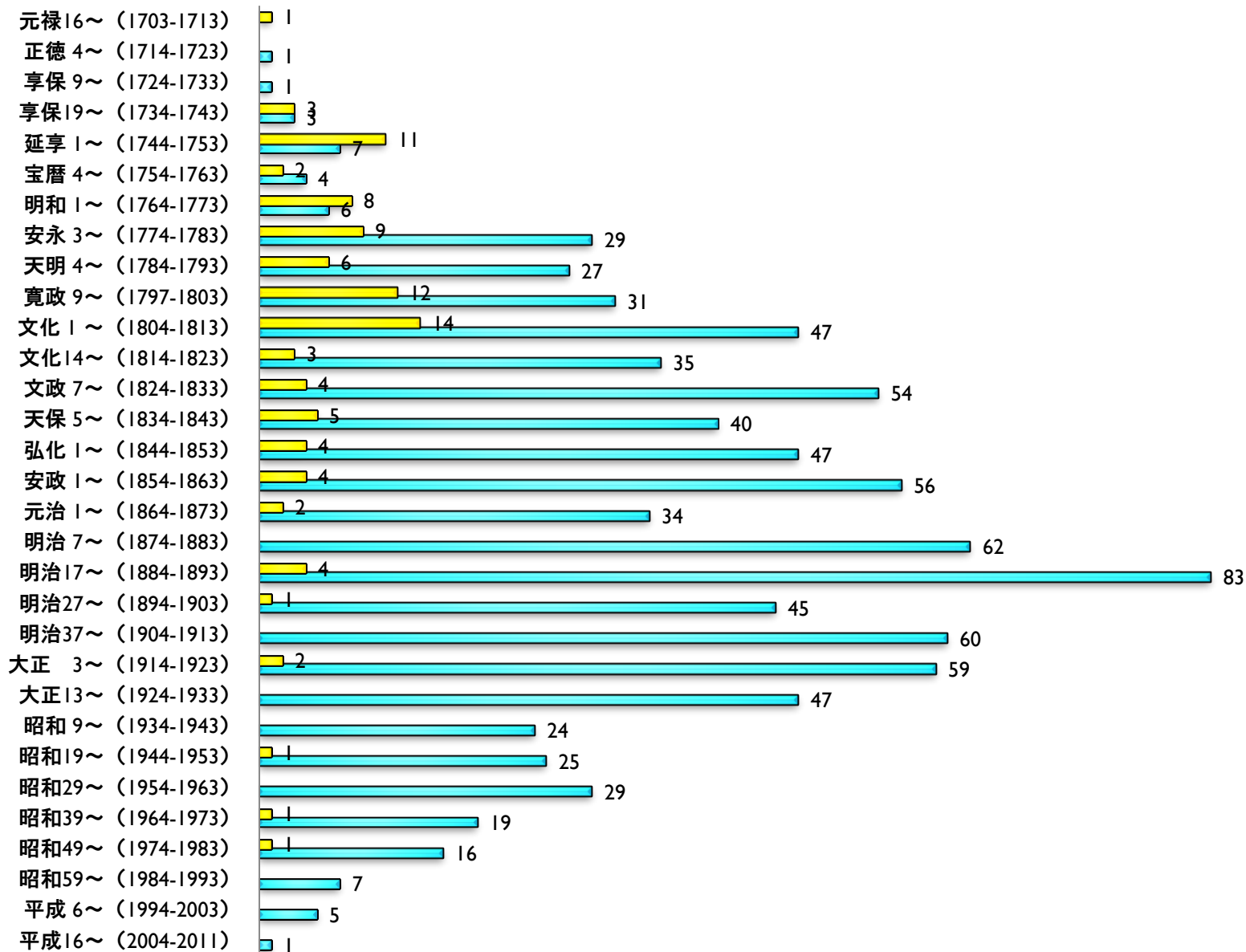


江戸では「江戸の六夜待」として近世の江戸で隆盛をきわめた一時期があったという。月齢二十六前後の月は三日月のように細く、東天に姿をみせるのは明け方に近い時間である。7月26日のこの月光の中に、弥陀・観音・勢至の三尊が見えるといって、文化・文政の時代には湯島天神などの高台や芝高輪品川などの海岸は見物客でにぎわい、月待信仰の名を借りた夜遊びの遊興娯楽の行事であったことから、風俗の乱れを懸念する幕府の取り締まりが行われ、天保期に入って急速に廃れたらしい。



# 北総の子安塔数の推移

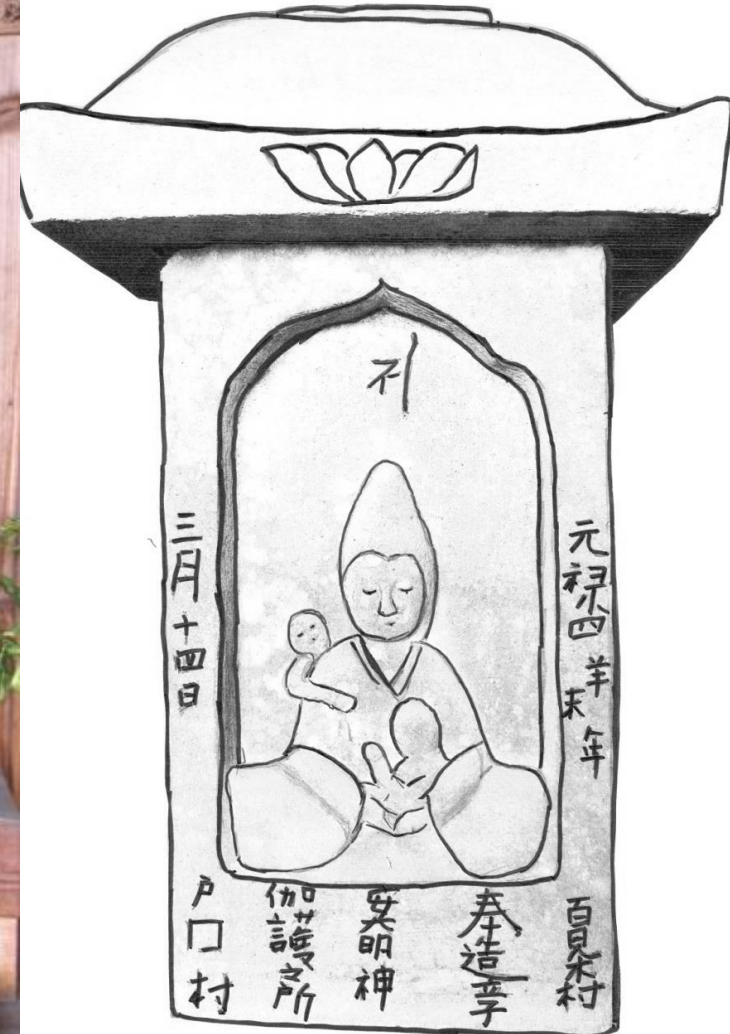
■文字のみの子安石塔・石祠 ■子安像塔数（墓標仏を含む）





千葉県最古の子安塔

袖ヶ浦市百目木の「子安大明神」石祠 元禄4年（1691）銘





# 八千代市の子安神社 江戸中期の上高野と村上の「子安大明神」



元禄16年(1703)  
上高野 子安神社



延享2年(1745)  
村上郷土博物館入口

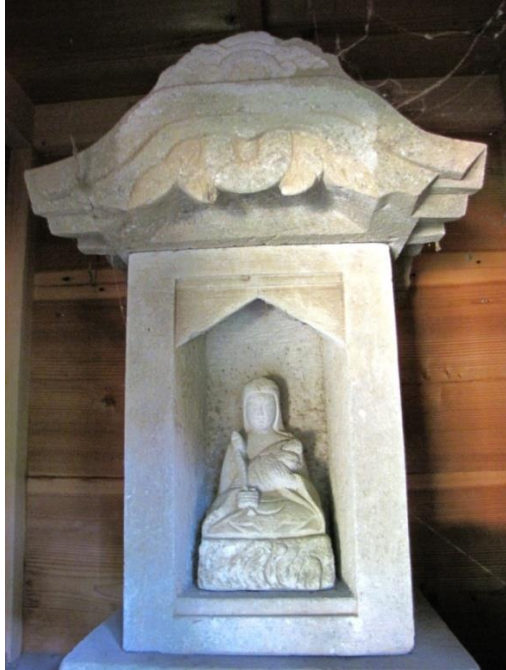


宝暦9年(1759)  
村上七百餘所神社古墳



## 石祠の子安さま

(子安神をまつる石祠から、十九夜塔も子安像塔へと変わっていく)



文化3年(1806)  
印西市宮内の  
鳥見神社



文化13年(1816) 千葉市  
加曽利町



文政7年(1824)  
船橋市 高根町 神明社



- 月を拝する信仰と、二世安楽を祈願する念仏講が集合し、江戸初期から庶民の念仏供養の月待塔造立が、広く普及した。
- 月待塔では、中世から二十三夜待の板碑が先行し、近世には二十三夜塔として全国に広まり、北総では月待塔の約3割を占める。造塔の主体は、近代まで男性がほとんどである。
- 月待信仰は、山の神信仰と同じく、生殖・豊穡の神として、本来女性中心であり、近世には、十四夜～二十二夜（特に十九夜）の月待塔が、女性中心の講によって建てられた。
- 女人講による十九夜塔は、北総では二十三夜塔をしのぐ数が建立され、月待塔の6～7割を占める
- 十九夜塔の主尊が如意輪観音であることと、なぜ十九夜が選ばれたかは、謎である。
- 江戸後期から、女人講の主尊は子安像（子安大明神・子安観音）となり、幕末から近・現代は、安産子育てを祈念する子安講による子安塔が主流となる。
- 東総では、江戸前期から女人講の多彩な月待塔が多く、一方、八千代・船橋市域では、十九夜・二十三夜・二十六夜に限られていく。
- 船橋～八千代西部の二十六夜塔は、幕末以降、女人講が主体か。



ご清聴ありがとうございました。

